



小田小だより

平成29年3月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校



そっと手を合わせる！ ～『お陰さまで』と感謝の思いを込めながら～

学校長 木村 昭雄

重松清の『青い鳥』に収録されている「カッコウの卵」の一節を紹介します。
「おまえの手のひらは、嫌いな何かを握りつぶすためのものじゃないんだ。大切な何かをしっかりとつかんで、それから、大切な何かを優しく包んでやるためのものなんだよ。」
親に虐待されて施設に預けられ、学校にも馴染めなくなつて中学校卒業後すぐに就職した少年が、唯一気を許した非常勤講師の村内先生に7年ぶりに出会って興奮する。先生より背が高くなつた少年が先生と手のひらを合わせたとき、先生は「いい手になったな。守る人のいる男の手だよ。」と褒めたあとに続くのが上記の言葉です。中学時代は、言葉より手が出て喧嘩や暴力事件を引き起こす多感な時代です。そんな子どもに「暴力はだめだよ。」と説教しても子どもの高ぶっている気持ちは収まりません。村内先生のように「君の手を握り締めて拳をつくれれば相手を傷つける武器になり、手のひらを開いて差し出せば相手と握手して一緒に楽しい時間を創るきっかけになるんだよ。」と静かに言ってあげることも必要だと思います。この本の舞台は中学校ですが、親として教師としての大切にすべき姿勢は同じです。忙しくて「手が回らない」、指導に「手がかかる」「手を焼く」「手に余る」などと言わず、子どもの心の内を読み取り適切な助言をすることに「手を尽くし」たいものです。
村内先生は、吃音でうまく話せませんが、いつも大切なことを教えてくれて、いつもそばにいてくれる先生です。孤独で悩みを抱えている子どもの心の中が分かる先生で、弱者の味方です。子どもにだまされてもそれを信じて子どもの立場に立ってやれる先生です。
今、学校は様々な教育課題を抱え、先生方は子どもとふれ合う時間が少なくなつてきているのが現状です。子どもにとって先生はご両親に次ぐ身近な存在で、子どもが大人になるためのお手本にならなければならないのに、子どもとふれ合う余裕も、機会も少なくなつていのは悲しい限りです。そのような中、小田小学校の教職員は、時間と空間を超越して子どもたちのために頑張り続けております。どうかこれからも手と手を携えながら、将来、自分の幸せを自分の手でつかみ、自分の周りの人たちをも幸せにする力を育成するためにご協力をお願いいたします。

小学校低学年頃の私の思い出話です。母が私の手の爪を切るときはいつも膝の上に抱っこをし、握りばさみを使って一本一本の指の爪を切りながらお互いに他愛もないいろんな話をしていました。爪を切るときが唯一母の膝を独占できることを子ども心に分かっていた私は、何か心配事があるといつも母に「爪、切って！」と言い、母は待たせることもせず「おいで！」と言って膝に抱っこをしてくれました。爪を切り終わった私の小さな両手を、皸(あかぎれ)を絆創膏(ばんそうこう)で覆ったざらざらした両手で包み込んで母は、「こうやって手と手を合わせて、『お陰さまで…、お陰さまで…』と感謝しながら生きていくんだよ。そうすれば幸せになれるから……。」

「人と人との出会いにそっと手を合わせる……。」とは小説家、曾野綾子さんの言葉だったでしょうか。かわいいかわいい小田小学校の子どもたちと出会ったのもご縁。その子どもたちの保護者の皆様やその子どもたちが暮らす地域の皆様と出会ったのもご縁。本当に素敵なお縁でした。今年度も残すところあと僅かとなりました。母の教えそのままに手を合わせ、申し上げます。お陰さまで3月末をもちまして定年退職を迎えることとなりました。保護者の皆様、地域の皆様にはいろいろな場面でたいへんお世話になりました。誠に有り難うございました。

いよいよ3月18日は「第26回卒業証書授与式」の日です。卒業生の皆さん一人一人が、希望をもって、自らの力で前に向かって進み続けるよう心から祈念しております。